

## 最近の症例から (8) ——単純性骨嚢胞——

上松隆司, 氣賀昌彦

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

患者: 18歳, 女性

初診: 平成元年8月1日

主訴: 右側下顎臼歯部違和感

既往歴, 家族歴: 特記事項なし

現病歴: 平成元年7月29日, 右側上顎小白歯部の冷水痛を主訴に某歯科医院を受診, X線検査にて偶然右側下顎小白歯部から同側下顎枝部にかけてX線透過像を認めたため, 紹介により当科を受診した。

現症

全身所見: 体格中等度, 栄養状態良好

局所所見: 顔貌は左右非対称性で右側下顎角部の膨隆を認めた。

口腔内所見では, 4から8部にかけて頬舌的な膨隆を認め, 同部は骨様硬で羊皮紙様感は認

められなかった。76543は生活歯で動揺, 打診痛は無く周囲歯肉に炎症症状は認められなかった。臨床検査所見: CRP(±)以外には血液一般, 化学, 尿, 血清検査に異常所見は認められなかった(表1)。

臨床診断名: エナメル上皮腫の疑い

X線所見: 4から同側下顎枝下顎孔部にかけて比較的境界不明瞭, 単胞性でいわゆる scalloped appearanceを呈す均一なX線透過像を認めた(写真1)。CT所見では, 頬舌的に膨隆した骨皮質が明瞭に認められた(写真2)。

処置: 初診時, 穿刺吸引試験および検体採取を行った。4から下顎枝におよぶ骨欠損部に, 少量の粘稠度の低い血液様内容液と結合組織様の被膜を認めたが, 上皮様組織による裏装は認めなかつ

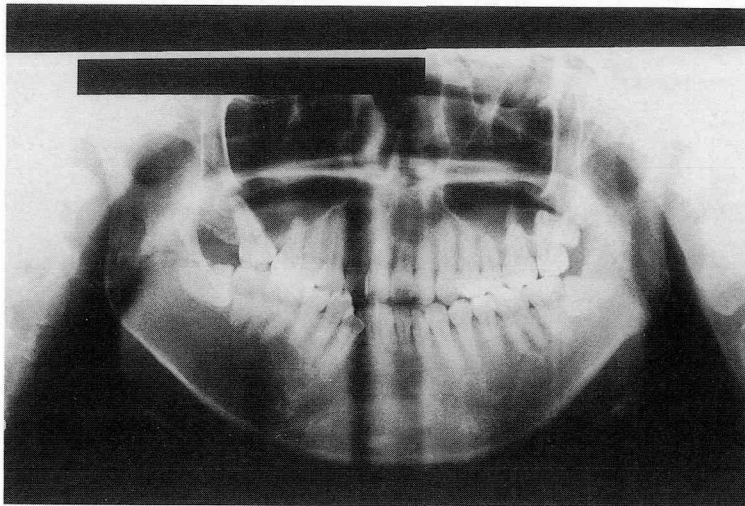


写真1: 初診時パントモ所見

表1：初診時臨床検査成績

(血液一般)	
赤血球数	397×10 <sup>4</sup> /μl
白血球数	53×10 <sup>2</sup> /μl
血色素量	12.7 g/dl
ヘマトクリット値	38.2%
血小板数	18.0×10 <sup>4</sup> /μl
血沈値	6 mm/hr
白血球分画	
Stab.	10%
Seg.	57%
Eosino.	0%
Baso.	0%
Mono.	0%
Lym.	33%
(血清)	
CRP	(±)
(血液化学)	
TP	7.9 g/dl
ALB	4.9 g/dl
A/G	1.6
T-BiL	0.5 mg/dl
GOT	11 U/l
GPT	8 U/l
LDH	280 U/l
ALP	90 U/l
LAP	40 U/l
Ca	9.9 mg/dl
P	3.2 mg/dl
Fe	74 μg/dl
Na	142 mEq/l
K	4.0 mEq/l
Cl	103 mEq/l

た、検体採取後搔爬術を施行し、骨腔内を新鮮血で満たした後一次閉鎖した。その後8) 抜歯術を施行したが抜歯窩と骨腔との交通はみられなかった。

病理組織診断：単純性骨嚢胞 (Simple bone cyst)  
 内容液の生化学的検索：患者血清成分と比較すると、T-BiL, ALP, Fe 値が高値を示したほかは、血清成分と類似していた (表2)。

表2：内容液の生化学検査結果

TP	6.7 g/dl
ALB	4.4 g/dl
A/G	1.9
T-BiL	3.3 mg/dl
GOT	11 U/l
GPT	4 U/l
LDH	441 U/l
ALP	832 U/l
LAP	45 U/l
Ca	8.9 mg/dl
P	7.2 mg/dl
Fe	195 μg/dl
Na	134 mEq/l
K	4.7 mEq/l
Cl	105 mEq/l

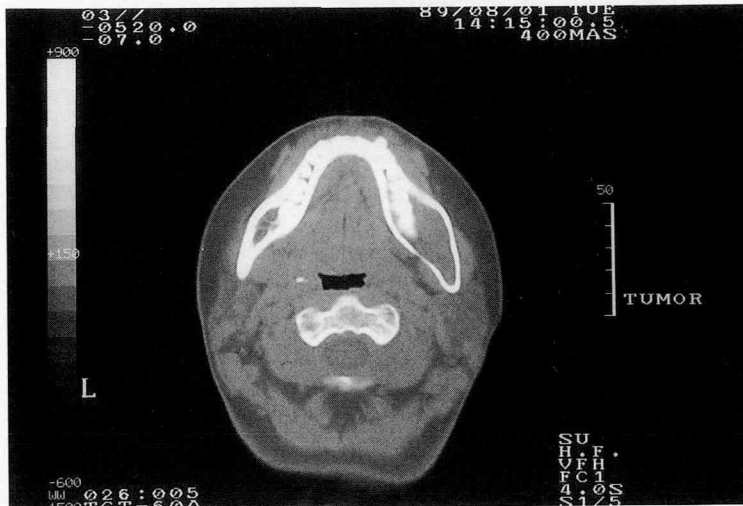


写真2：初診時CT所見